

● 平成 29 年度 交流会 第 7 回 『こどもの腎臓疾患』 ●

講 師：県立広島病院 小児腎臓科 部長 藤井 寛 先生

実施日時：平成 29 年 11 月 29 日（水） 14：30～16：30

会 場：広島県廿日市第 2 庁舎（西部保健所）

対 象 者：腎疾患の子どもの家族、支援関係者、関心のある方

参 加 者：18 人（家族 12 人、養護教諭 2 人、患者会 1 人、看護師 1 人、

保健師 1 人、理学療法士 1 人）こども 1 人 担当：西部保健所

● 講演内容

①腎臓の構造とはたらき

形態と周囲の臓器との関係、機能、ホルモンなど

②原発性糸球体疾患・ネフローゼ症候群の診断と治療

診断・治療・退院後の学校生活

③血液浄化療法、移植

血液・腹膜透析の症例数、導入基準、治療の実際

移植、腎生検について



● アンケート結果より

<参加のきっかけ>

「居住地区で開催されたため」「病院の先生の勧め」

「職場で小児の受け入れが出来るよう知識を深めたい」

<参加された方の感想>

「疾患や小児の透析についても理解が深まった」

「専門的なお話もあったが質問にもよく答えていただけた」



● 相談員より一言

廿日市市で腎疾患の交流会を開催しました。県内推定患者数が 200 人以下と対象者の少ない腎疾患であります、12 名のご家族に集まっていただきました。



「廿日市市難病患者子ども会」代表の星野さん（写真左）にもご参加頂き、お話を伺いました。腎疾患は決して重症度の低い疾患で、退院後は同じ病気をお持ちのお子さんとお会いする機会は殆どなく悩みを抱えておられるご家族が多いです。今回はご家族の年齢が近く、講師が主治医のご家族もおられ話しやすい雰囲気でも和やかに会が進みました。県内に小児腎疾患の専門医は 3 名のみで、首都圏の病院とも連携を図っているとのお話もありました。

